

地歴公民(日本史) 早稲田大学 国際教養学部 1/1

<全体分析>

試験時間 60分

解答形式

マーク式 30 問(語句選択 5 問 正誤判定 24 問 年代整序 1 問) 記述式 10 問 計 40 問

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易(易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化)

大問数 4 題、小問数 40 問は例年通りである。語句選択問題が 2 問減少した分、正誤判定問題が 1 問増加し、昨年度出題されなかった年代整序問題が 1 問出題された。正誤判定問題が半分以上を占めるため、試験時間 60 分に余裕があるとはいえない。

出題の特徴

変化があるが、大問Ⅰがテーマ史、大問Ⅱが中世・近世のテーマ史、大問Ⅲ・Ⅳが近現代(Ⅲ・Ⅳのどちらかが英文史料問題)という出題構成は継承されている。例年通り、対外関係をテーマとする問題文や史料が多くを占めた。

その他トピックス(入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など)

特になし

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	語句選択 正誤判定 記述	古代～中世前期の 仏教	仏教史は 06 年度にも出題されたテーマである。正誤問題が設問の半分を占めるが、選択肢の内容は正誤の判断をしやすいものがほとんどである。問 2・3 は消去法を用いて正解したい。	易
II	語句選択 正誤判定 年代整序 記述	『読史余論』でたどる武家政権の展開《一部史料》	後醍醐天皇の時代から江戸時代までの政治を中心に問う問題である。国際教養学部では 15 年度にも中世から近世にまたがる武家政権の展開が問われた。史料の空欄補充問題である問 7 は、アの「太政大臣」と迷ったであろう。	やや易
III	正誤判定 記述	日清戦後から日露講和までの外交と政治《史料》	全体としては誤りが明確である正誤問題が多いが、問 7・8 は内容を丁寧に吟味して正解したい。問 6 は憲政会の総裁をつとめた加藤高明・若槻礼次郎のうち外交官経験者であることを考慮して、加藤高明と判断したい。	易
IV	語句選択 正誤判定 記述	戦後の沖縄 《英文史料》	英文史料は、1967 年の佐藤・ジョンソン会談と 1969 年の佐藤・ニクソン会談において出された共同声明である。問 1 はアメリカ施政権下の沖縄についての詳細な知識が要求されているので、難。問 4 と 9 は英文史料の内容を正確に読み取れないと正解できず、やや難。問 5 は英文史料中の Bonin Islands つまり小笠原諸島が話題になっていることからウの「Johnson」と判断できるが、やや難。問 6 は詳細な知識が必要であり、難。問 7 はやや難。	難

※難易度は 5 段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

2021 年度入試より日本史の学部独自試験は実施しない。